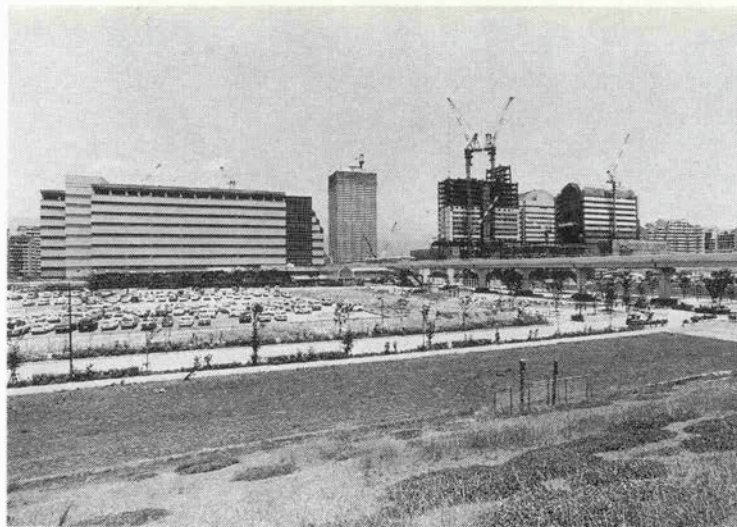


■特集 神戸のウォーターフロント

六甲アイランド

住む、働く、学ぶ、憩う、遊ぶ、 多種機能型、海上文化都市

木下 敏郎 〈神戸市開発局民間活力推進室長〉



六甲アイランドは、ポートアイランドに次ぐ第二の海上文化都市として、近代的な港湾機能と、国際化・情報化に対応した都市機能を備え、国際情報都市神戸をさらに発展させる拠点である。

既に、島の外周部では、世界最大級のコンテナバースが稼働し、また延長五基に及ぶ小高い緑の丘「シティーヒル」に囲まれた島の中央部の都市機能ゾーンでは、中央部に整備した水路広場「リバーモール」を軸に、「住み」「働き」「学び」「憩い」「遊ぶ」ことのできる多種機能型複合都市の建設が、民間活力を導入し進められている。

住友信託銀行を中心とした企業グループが整備を進めている北側のゾーンでは、約四千戸の住宅と、ファッションマート・ホテル・グルメビル・総合病院等の業務・商業施設が建設されてきている。

住宅では、多様なライフスタイルに対応した様々なタイプの住宅が供給されてきており既に一九〇〇戸が入居している。今年末には高さ一四〇m、四十階建ての超高層住宅の入居も予定されている。



水と緑がネットワークする街。都市機能ゾーンのシンボルのリバーモール（上）。地域冷暖房システム、地域温水供給システム、CATV事業、中水道システム等の施設が整備されている。



右のシンデールヒルは、都市機能ゾーンをとりかこむ高さ61.1mの丘を、環境を守る。上/91年9月開業予定のファッション・マーケット「アパレル・約500社のテナントが入る」。



業務商業施設では、四月にインテリジェントビルと専門学校二校がオープンしたのに続いて、十月には「神戸ファッションマーケット」がオープンする。このマーケットは、国内外のアパレルメーカー・卸売業者約三五〇社のショールームからなるファッションの一大流通・情報発信の拠点となる施設である。

さらに、南側のマリンパークでは、セゾングループが「AOI A」の建設を進めている。これは、ウォーターフロントの立地を生かし、水に触れ、水と遊ぶことをテーマに、大人から子供までが四季を通じて楽しめるレジャー施設である。施設内に延長一・五詰のキャナル（運河）を整備し、この周りに、プール・ホテル・アミューズメント等を配置する計画である。七月には、プールを中心とした「スプラッシュガーデン」がオープンする。

また、シンデールヒルでは、市が「小磯記念美術館」を平成四年の秋の開館を目指し建設中であり、「アーバンリゾートフェア」の開催される平成五年には、官民一体となった街づくりが大きく進んでいる。

六甲アイランドでは、民間活力の導入により、今までにない個性的な新しい街が創造されてきている。今年度は、街の完成に向けて次の事業コンペを実施したいと考えており、二十一世紀には、賑わいにあふれた魅力ある海上文化都市が誕生しているものと期待している。

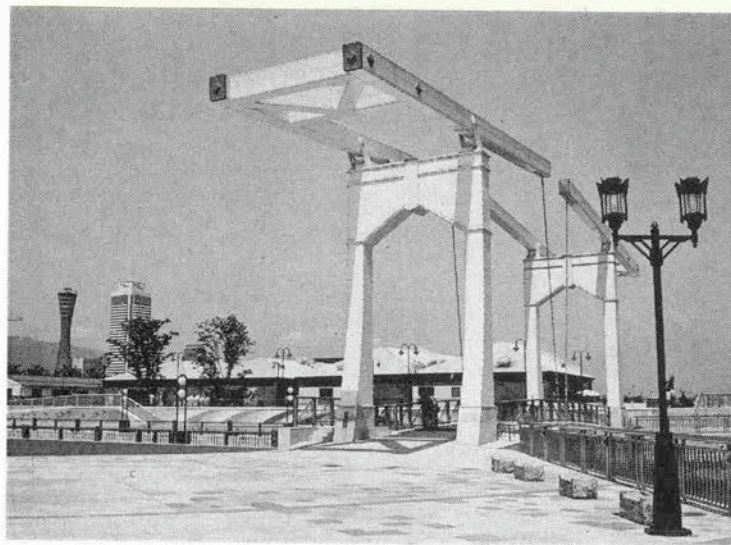
■特集 神戸のウォーターフロント

ハーバーランド

ハーバーランドを

老いも若きも愛される街に！

嶋田 勝次 〈神戸大学工学部建築学科教授〉



▲ハーバランド広場は「出会いのウォーターフロント」として、魅力ある水際空間を形成。海に沿って遊歩道（ハーバーウォーク）を設けている。写真は“煉瓦倉庫”と“はね橋”。憩いの場所になりそうだ。

神戸ハーバーランド地区は、今、現地の建築が真っ最中である。ダンブカーは走りまわり、タワークレーンが林立し、鉄骨むき出しの中に煉瓦倉庫が保全され、その内部はレストランとして活用されているところもあるし、それと対照的に新しいビルがいくつも出来上ってきている。

そのうち最初期に完成した総合児童センターや総合教育センターには、新しい内容を盛り込むことに懸命のため、その新建築から表情の豊かさを感ずるところまでには至っていない。

東川崎・橘・入江の3小学校を統合して生まれた湊小学校は、隣接する盲学校と共に、新しい都心の再生まで期待されるものである。

神戸ハーバーランドがこのように早く具体的な形を表わしてくるとは、当初のハーバーランドのネーミングからシンボルマークの選定から次々と矢継早に話題を提供してきたのを目の前にしながらも、それでもこの街づくりの形が着々と実体になってきている姿には、こんなに早いスピードの



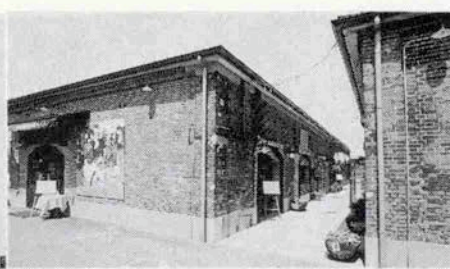
▲第12回神戸須磨離宮公園現代彫刻展で大賞を受けた植松圭さんの“嵐のとき—赤いかたち／浮”。



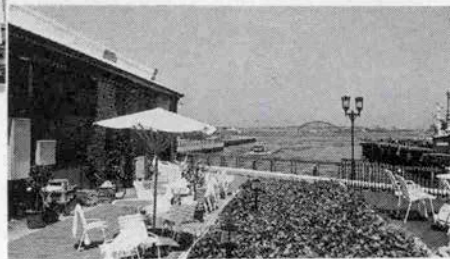
▲神戸市住宅供給公社住宅、総合教育センター（手前）



▲神戸ガスビル 地域冷暖房プラント及び大阪ガス（神戸支社）からなるⅠ期棟と、専門店ゾーンを中心とした「新しい文化・商業の複合施設」のⅡ期棟で構成される。



▲煉瓦倉庫を改装し、中はレストランとして利用。



▲煉瓦倉庫からの眺めもすばらしい。

建設が、こんなことでよいのかと思う気分が強く
なってきた。

旧国鉄神戸駅のすぐ南側と勝手に思っているの
だが、地図上では駅の東に位置したところである。
国鉄湊川貨物駅跡地から、神戸市街地西部の再生
を目指したものであり、この立地はこれまであま
り意識されなかったが、インナーシティのひとつ
のキーを握っているところである。元町の市街地
と隣接しており、また往年の娯楽街の新開地とも
つながるし、更に海とも直結していることを考え
ると、ますます期待に胸ふくらむ感じが強くなっ
てくる。

そんな時に一昨日もハーバーランド景観調整会
議が行なわれた。今回はハーバーランドの東端の
海に面した高浜岸壁のウォーターフロントに広大
な建築計画のチェックである。

これまでいくつも新しい建築の提案に対してチ
ェックさせていただいたが、更によりよいものに
まとめあげるためにはどのようなデザインに仕上
げるかということであり、それも淋しく冷たいデ
ザインだけが存在しているのでは意味はない。

暖かく沢山の人に愛されるまちにどう育てて行
くかが問題なのであり、そのために早く一時に建
築だけをつくってしまうよりも、いつも話題をも
ちつづけるまちづくりを永续させることであらう
と思っている。

やはりまちづくりはひとつくりであり、若い人
も年とった人からも、愛されつづけるまちにどう
したらなるのか、みんなで考えて行きたいもの
である。

■特集 神戸のウォーターフロント

新川運河

兵庫の新川運河を

市民の憩えるプロムナードに

明渡 丞輔 〈神戸市港湾局技術部計画課長〉



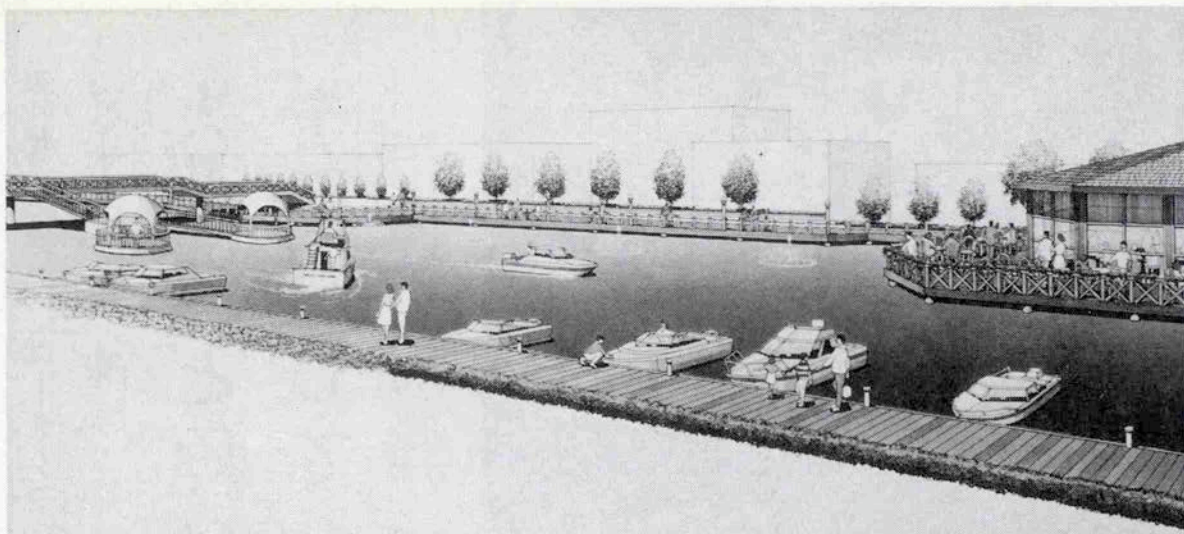
▲新川運河周辺

神戸市における運河の歴史は古く（明治7年開削着手）、物流生産の場、小型の船舶の避難所として長年にわたり利用され、港湾と内陸部を結ぶパイプ役として、地域の発展に貢献してきた。

しかし、最近の運河には物流機能のみでなく、市民の憩いの場となるような、ウォーターフロントとしての再開発の要請が高まっている。

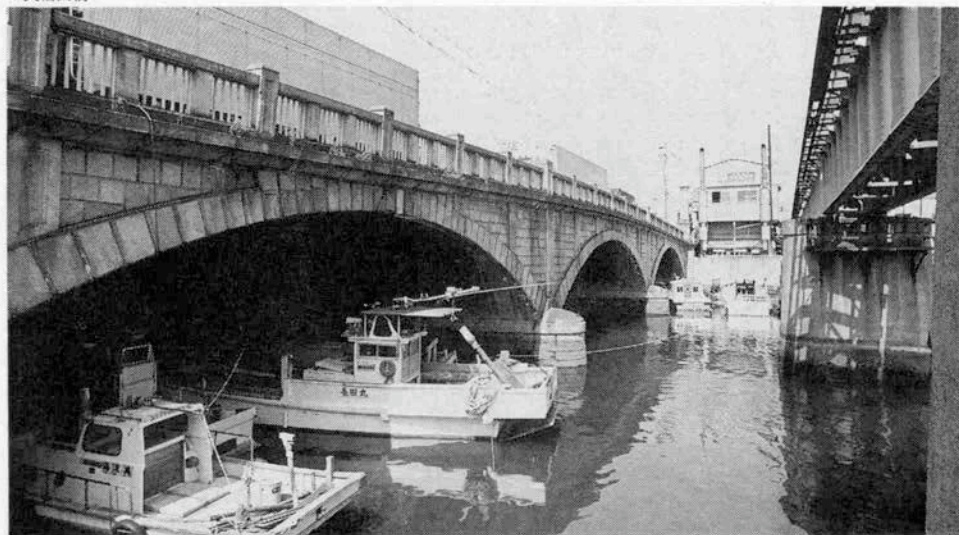
このような情勢から、神戸市港湾局では兵庫・新川・苅藻運河等のうち、運河利用者との調整が可能であった新川運河において、憩いの場となるウォーターフロントプロムナードを整備し、市民の要請に応えるものである。

新川運河プロムナードは、入江橋と大輪田橋（兵庫区切戸町）の間の水域に整備するもので、延長約三三〇m、幅約一〇mのプロムナードを設け、途中にはベンチやパーゴラを設置するとともに、北側にはレストハウスや駐車場を整備する。また、南側には広場等を整備し、利用者が気軽に散歩や休息ができる空間となるように整備を進め



▲完成イメージパース

▼大輪田橋



ることとし平成元年度より着手している。
この事業は、インナーシティ対策のリーディングプロジェクトとして位置付けられており、同地区周辺で整備が進められている「歴史の道」プロムナードと有機的に連携をとりながら平成4年度の完成を目指して進めていくこととしている。

■特集 神戸のウォーターフロント

マリンピア神戸

人と海と魚のふれあいの場 を目指して

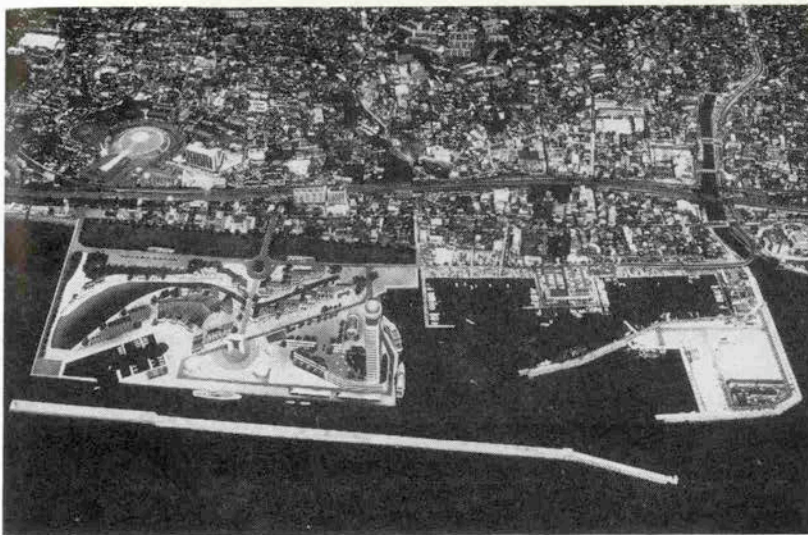
平尾 鉄男 〈神戸市農政局生産振興課主幹〉

「マリンピア神戸」は、現垂水漁港、栽培漁業センター、海づり公園、明石海峡大橋及び五色塚古墳等の諸施設と連携して、活鮮魚の消費基地や高級魚介類の稚魚の育成基地として、また新しい神戸の海洋レクリエーション・海洋リゾート地として整備するとともに、緑地、渚等のウォーターフロント施設を併設し、海の文化の継承と地域の活性化及び環境整備を図り、快適な都市環境を創出しようとするものである。

この建設地の周辺地域と調和した美しく新たなイメージアップにつながる街づくりを目指し、基本テーマとして『海、漁、街の讃歌』『人と海と魚のふれあいの場』を、サブテーマとして「サンライズ・サンセット・明石海峡大橋を楽しめる街」「運河と瓦屋根の街」、「活魚を核とした活力のある街」を掲げ、上図（計画構想図）のように整備を行う。

建設地は、現垂水漁港西側の沖合約四百三十メートルに建設した南防波堤の内側に、東西約六百

マリンピア神戸（計画構想図）



土地利用・施設整備計画

名	称	面 積	施 設 等
渚 の 公 園 5.8 ha	緑 地	3.6 ha	緑 地
	ウォーターフロント用地	2.2	漁村風景、渚公園（磯遊場）
海 洋 牧 場 1.8 ha	魚介の産卵・育成場用地	1.8	ヒラメ、タイ、チヌ、アジ、カニ、フグ、アワビ、サザエ等(水深6m)
海 中 の 楽 園 3.2 ha	宿 泊 研 修 施 設 用 地	2.3	サンセット・ハーバー、宿泊研修施設、海中遊歩道
	遊漁船等用業務施設用地	0.9	遊漁船、研修用モーター・ボート、クルーザーの発着場
海 辺 の お 祭 り 広 場 1.1 ha	文 化 振 興 広 場	1.1	文化振興広場、子供の遊び場、海上ステージ
防 波 堤 広 場	海 づ り ・ 散 策 広 場	延長 960m	渡橋、海づり公園
運 河 通 り 2.1 ha	シ ョ ッ ピ ン グ 通 り	2.1	活魚供給施設、ショッピングセンター、渚と運河と瓦屋根の街、駐車場
都市型多目的 宿泊施設用地 2.3 ha	リ ゾ ー ト ホ テ ル 用 地	2.3	リゾートホテル (シンボルタワー兼用25F) 大ホール、会議場、プール、駐車場等
活 魚 の 公 園 2.2 ha	魚 市 場 用 地	0.4	朝市、活魚館、サンライズ広場、駐車場
	関 連 用 地	1.8	活魚蓄養施設、天日干場
計		約 18.5 ha	(埋立面積 17.0 ha)

メートル、海岸線から約三百五十メートルの十七ヘクタールを埋め立て、総面積十八・五ヘクタールの土地を左表（土地利用・施設整備計画）の八つのゾーンに分け、施設を整備するものである。

平成三年一月に護岸等の外郭施設の建設工事に着手しており、六年度には土地造成を完了し、明石海峡大橋が完成する九年度までに完成させる計画である。

■特集 神戸のウォーターフロント

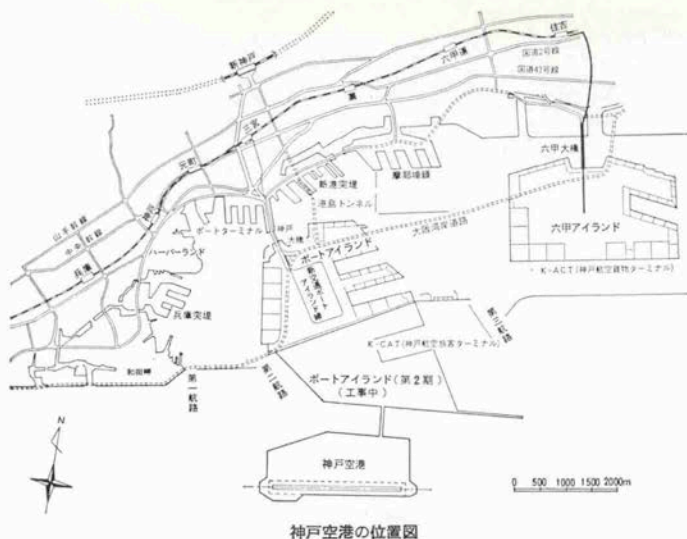
神戸空港

“国内の空”のネットワークの 拠点としての役割に期待

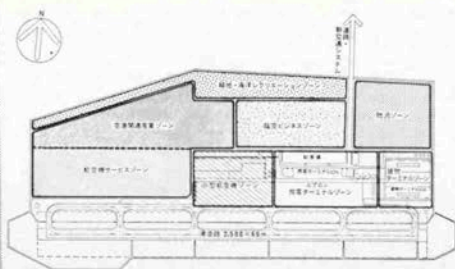
六月十日、神戸国際会館で、「神戸空港推進大会」が神戸空港建設促進協議会主催で開かれた。
 “神戸に空港を”の声は、地元・神戸の各界の熱い思いを込めて、今、全市的に広がっている。
 神戸空港の基本計画は次の様になる。

まず空港の種類であるが、第三種空港、つまり地方公共団体が設置し、管理する空港である。建設予定位置は、ポートアイランド(第二期工区)の沖合い約三キロ。二五〇〇メートルの滑走路を一本もつ約三〇〇ヘクタールの海上空港で、神戸、阪神間と、その周辺地域を含めて、約五〇〇万人の都市圏における航空利用者の利便を図り、兵庫県域航空システムの母港とすることが目論まれている。

神戸空港の特長としては(1)都心に近接し、航空サービス水準の高い、都心機能と直結した都心型大都市空港(2)多方面へのネットワークを形成する国内線の拠点空港(3)空港へのアクセスなど利用者にとって便利で利用しやすいユーザーフレンドリ



神戸空港の位置図



神戸空港の調査および建設スケジュールとして、地元の兵庫県・神戸市では、昭和五十七年度から基礎調査を開始し、平成三年五月に基本計画を策定、平成三年以降、環境影響調査、空港設置許可、埋立免許、工事着手が予定されている。

開港目標は、平成十年頃とされているが、旅客需要としては、平成十二年に年間二四〇万人、平成二十年発着（一日当たり三十六便）、同二十二年には年間五七〇万人、三〇万回発着（一日当たり八十二便）が見込まれている。左は、空港の完成予想図、ボーアイの沖合い三キロの地点が予定されている。神戸空港位置図と上の空港島の土地利用イメージ図は、「神戸空港基本計画検討委員会報告書」（平成二年五月）から。

1 空港(4)コミュニティーなど新しい航空ニーズに対応可能な空港(5)情報、商業、業務、娯楽機能など多様な都市的機能をも包含した多種機能型空港(6)海上空港の特性を生かして港湾との連携により相乗的な効果を発揮し、地域経済の活性化、高度化、海事・港湾従事者の雇用の促進などに資する空港(7)周辺地域における公害の防止と自然環境の保全に十分配慮した公害のないことなどがあげられる

このように神戸空港は、都心に近い利便性のある国内空港として、単なる空のターミナルだけではなく、人々がふれあい、情報を発信する都市としての様々な機能を分担している。一方、大阪国際空港に対しては、ピーク時の負担を軽減し、また、建設中の関西新空港に対しては、海上アクセスなどの利用により、国内線から国際線への乗り継ぎを補完する役割を担うこととなる。

神戸市は、ファッションや文化などの新しい情報を発信して行く多種機能型複合都市として、人・モノ・情報の交流拠点づくりをめざしているが、神戸空港は、国内の空のネットワーク拠点としてその役割が大いに期待されている。

平成二年八月二十四日の航空審議会（空港・航空保安施設整備部会）中間とりまとめ中の「なお今後、空港を核とした街づくり・地域づくりが期待されるところであり、地域の創意工夫をもとに、地域の主体的な役割が発揮される方向で、周辺開発と一体的に空港の整備を図ることを検討する必要がある」（第6次空港整備五箇年計画の基本的考え方より）との方向に沿って、神戸市民の総意で、その実現に向けて強力に推進して行きたいものである。

新しい胆石治療について

——忍者の極意と医者による考察

沢田 勝寛（医療法人新須磨病院外科医長）

マンガ／高橋 孟

公儀お庭番首領服部半蔵が將軍に呼ばれ、忍者の極意を見せて貰いたいと言われた。半蔵はしばらく思索した後、座敷の襖を開け敷居の上を音もなく歩き、「殿、これが忍者の極意でございます」と答えたという。すなわち、敷居と同じような板が深い谷に架かっているようにも、真の忍者なら敷居の上を歩くのと同様に歩くことができるが、常人ではそれは不可能であると言ったそうである。

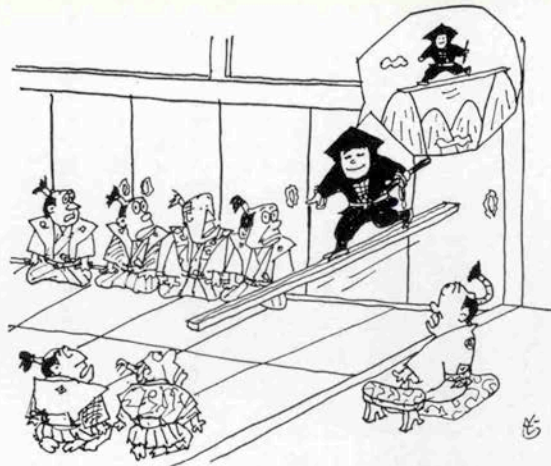
私がこの話を雑誌で読んだのは、医学部を卒業した昭和53年頃であつたと思う。外科医の道を歩むことになった私は、様々な臨床場面に直面する度に、この忍者の極意は医者のものであるという認識を持つようになった。外科医は注射や創の縫合といった基本手技から種々の手術手技に到るまで多くの技術を習得しなければならない。患者の体型・体格は千差万別であり、重症度、緊急度も異なるため、同じ医療を施行するに当たっても難易度に大きな差が生じてくるわけである。

一例を上げてみよう。出血性ショックの患者が運び込まれた。原因はともかく救命のためには緊急の輸液、輸血が必要である。先ずなすべきことは静脈確保（点滴の針を入れること）である。しかし、ショック患者の血管は収縮しており静脈確保は容易ではない。通常の点滴技



術だけではこの患者を救うことは出来ない。頸部や大腿部の太い静脈に針を刺す技術が必要である。決して慌てない平常心も必要である。このような時には、敷居の上を歩けても断崖に架かった板の上を歩けない医者は無力であり、「医者」の極意を掴んだ医者は言えないのである。

同じことが手術を行なうときにも当てはまる。通常、手術は術前診断に基づき術式を予め決定し行なわれる。



しかし手術中に術式を変更せざるを得ない場合もある。この時に予定手術しか出来ない外科医では困るわけで、手術中に生じる様々な問題を解決できて初めて真の外科医といえるのである。

こうして考えてみると、「医者（の極意）」とは、様々な病態の変化に対応し適切な処置ができる幅広い能力、すなわち治療手段としての持ち駒の豊富さと言えるのではないかと思われる。

最近、胆石治療において新しい持ち駒というべき画期的な二つの治療法が開発された。

胆石症とは肝臓の下にある胆嚢にできた結石のために、お腹が痛くなったり、熱が出たり、黄疸が出る病気である。胆石の4 F…… Forty (40歳)・Fair (色白)・Fatty (小太り)・Female (女性)……と云って、40歳以上の色白、ぽっちゃり型の女性に多く見られる。従

来、治療法としては内服薬による胆石溶解療法か手術による胆嚢摘出術しか無く、溶解療法の治療効果があまり期待できないため、治療の主流は手術であった。

数年前、ドイツで体外衝撃波を用いた胆石破碎療法が開発された。これは機械的に作った衝撃波を胆石に狙いをつけて体外から当てて胆石を破碎する方法で、患者にとってほとんど苦痛が無く治療時間も短くてすむ画期的な治療法である。ただ胆石の性状、胆嚢の性状によって治療の適応がかなり限定されるという欠点はあるものの、適応胆石であれば一時間程度の治療で胆石が破碎消失してしまう症例もある。

もう一つの新しい治療法に二年前にフランスで初めて行なわれ、その後欧米で爆発的に広まった腹腔鏡を用いた胆嚢摘出術がある。腹腔鏡とは腹腔（お腹の中）を覗く細長い筒のことで、この先にビデオカメラを付けモニターテレビに映し出された胆嚢を見ながら、別の小さな穴から挿入した細長い鉗子（挟んだり、切ったりする道具）を用いて、胆嚢を切除し体の外へ取り出すのである。手術は全身麻酔で行なうが、普通の開腹手術に比べて創が極めて小さいので（5mm〜10mmの創が4カ所だけ）、術後の痛みが少なく、腸の動きが早く回復するため術後1〜2日で歩行も食事摂取も可能である。また傷跡もほとんど目立たなくなり美容上も有利である。胆嚢の変形が少なく、腹部手術の既往がなければこの手術の適応となるので、破碎療法よりは適応症例は多いと思われる。

このように、溶解療法か手術しかなかった胆石治療に新しい二つの治療法が開発されたということは、患者にとって選択肢が増えて喜ばしいことであるが、医者にとってはこの二つの治療法を自分の持ち駒に加えねば、胆石治療における「医者（の極意）」を掴んだとは言えなくなり、今後一層の精進が求められているといえる。

さわだかつひろ



■昭和53年神戸大学医学部卒。神戸大学医学部第2外科学教室、県立淡路病院外科を経て、昭和63年から新須磨病院外科へ勤務し、現在に至る。

総合力で夢の実現を

□座談会出席者（敬称略・順不同）

木口

衛

〈神戸ファッションアソシエーション理事長〉

川上

勉

〈株式会社オールスタイル／総本社代表取締役社長〉

松宮

隆男

〈株式会社モロゾフ／取締役社長〉

中内

力

〈株式会社神戸ポートピア／ホテル代表取締役社長〉

藤本ハルミ／ファッションデザイナー

★業種を越えて、積極的に街全体で盛り上げたい

司会 五月二十七日、待望の神戸ファッション協会が設立されました、おめでとうございます。神戸がファッション都市を目指してから二十年近くになりますが、その間、ポートピア[®]、ポートアイランド建設、ファッションタウンなどがあり、今、多数の企業や官庁の協力で、ファッション協会が発足しましたことは、誠に意義深いことと考えます。そこで協会設立の経緯、感想といった



木口 衛さん

ことからお聞きしたいと思います。まず、協会の副会長でもあるKFA理事長の木口さんからお願いします。
木口 紆余曲折もございましたが、大勢の方々にご参加を頂いて、ほとんどの業種を網羅したすばらしいスタートが切れたと思います。しかし、実際の活動はまさにこれからなんです。

川上 世界に向かってという大きなものから、小は生活文化をどのように導いていくかということについて、また協会の果たす役割は随分とあるわけですから、この協会のスタートは本当にめでたいことです。

松宮 いろんな業種の集まりですが、とりあえず共通項がなくてはいけないと思うんですけど、そういう意味では神戸の街のイメージは非常に高いですね。どこへ行っても「神戸はいい街ですね」と言われる。

ファッション協会の構成メンバーも非常にすばらしいし、神戸は美しく、楽しく、暖かく、遊べる街なんです、いまひとつ、その実態を上手に宣伝していないところがあるように思えます。

都市の広報というか、イメージの宣伝の仕方にまだ欠けたところがあるようなので、協会はそういう方面の仕事をやっていくことも大切なあと。また一番忘れてならないことは、原点はお客さまですから、神戸にいらっしゃるお客さんとか、神戸の商品をお買い上げになるお客さんを大切にすること、そのためには数多い構成メンバーを大切にすることが足並みを揃えるひとつのポイントになるんじゃないでしょうか。

藤本 ファッションというとき、神戸ではトータルな生



藤本ハルミさん



中内 力さん



松宮隆男さん



川上 勉さん

活文化を指していますが、それが組織化されたということですね。拝見しますと神戸らしいといいますが、「やわらか頭」ということで、重工業まで参加されているのが楽しいし、非常に期待しています。

中内 ホテルでパーティーがあるのでイブニングドレスを買うとか、タキシードを着るとか、また真珠のネックレスを買うという風に、一見ファッションに関係がないと思われるホテルが、実は非常に密接な関係があるというところを最近、感じています。

また、日本人の食生活も、二回に一回は外食といった比率になっていますから、レストランに食事に行くことが生活そのものといった状況になっている。ですからレストランもファッション感覚で対応していかなければならないので、これから勉強させて頂きたいと思っています。

藤本 今回ファッション協会という組織ができましたから、ぜひお願いしたいことがあります。私たちは今まで三年、ワールドファッションフェアをしましたが、神戸の企画というのは非常にユニークで、東京などからも注目されました。外国の方に言わせると、東京の次が神戸と言われるのが残念ですが、皆さん本当に一所懸命やったかと思っています。

最初、スペインでやって、次がウィーン、さらにミラノと続けました。それらの経験から申しますと、日本では、ファッションのショー自体は非常にいい感じで行われて、その場だけは爆発的な人気を集めるのですが、街全体の関わり方が非常にまずいと思うんです。折角、そういうことをやるんだったら、例えばファッションウィークのようなものを設定して、その時には商店街も一緒に燃えるし、街全体がそういうムードになるという風に。松宮 商売というのは、おのおのがやりますからね。下地に長い神戸の歴史があり、実体があって、人間模様があって風土がありますから、それをいきなり変えるというのは無理な面もあります。いいものがあれば、それ

を知らせていくということは非常に大きいことだと思えますし、できれば、プロを育てるということを地域ぐるみでやっていかなくてはいいけない。ファッションにしてもプロが居ないと成り立つ話ではないんで、プロの学校がたくさんできるとか、世界中の色々な先生が集まってる水準が上がるとか、やっぱりそういうのは大きいなあと思います。

それと、六十年たって最近やつと思いついたのですが広報といい、情報の発信というのも情緒的なものでないかと。人間というのは道理では説得できない、結局情緒ではないかと思うんです。そういう意味では、まさに「お祭り大好き」の時代ですから、お祭りの仕組みが大切です。ファッションフェアも含めて、お祭りをどう仕組むかということですね。もうひとつは、会社と一緒に、お金と人というものは限りがありますから、神戸でなければということを中心集約的にやった方が、広報もやりやすいですわね。いま色々考えられていることは、総花的ではないかと思うんです。だから切り口を絞って、神戸はこれをする、というように集中した方が、広報もやりやすいですよ。エッジがきいていないとやりにくいし、そういう仕組みみたいなものが必要ですね。

中内 まだ、神戸のファッションは、アパレルと真珠をはじめとする宝飾品のふたつが主導していて、それに他の業種がついていっているという感じですね。ですからファッション協会ができたのを契機に、参加している業種がそれぞれ積極的に動いてもらいたいですね。いままでは、呼びかけられたらそれに応じるという受け身の部分がありますが、それをどう切り換えていくかということが課題じゃないかと思うんです。

昨年、一昨年とファッションフェアで、グルメのフェアもやっていただいて、ホテルもレストランもそれぞれ参加しているんですが、やはり見えますと、声掛けられたからつき合わないかなんたという感じがですね。今後は、業種ごとに企画を持って、もっと積極的に取り組む必要

があるように思いますね。

★人、地域、世界を結ぶ都市のデザインを

木口 先日、六甲アイランドへ行ったのですが、ポートアイランドとは、まるっきり街の雰囲気、違っていました。しかし、六甲アイランドだけでもいいけない。ポートアイランドだけでもいいけない。両方が道路でつながれば、他の都市にはないすごい街ができます。せっかくこれだけの立派なものができても、行政とファッション協会が一緒になって、これを使い切らなくてはなりません。これからの一番の関心事ですよ。

藤本 神戸って街は、山があって海があって、景観が非常によいということが、他都市に比べて大きな財産ですからね。そのうえに、人工的な面でそういうものが完成されるということは、一層立派な舞台ができるっていうことでしょ。

中内 ファッションマートの原型がダラスにあるんですよ。そのコンセプトを日本にも、いうことで初めて六甲アイランドでやっているんですよ。ダラスのワールドトレッドセンターには、全米のバイヤーが集まる。六甲アイランドにそれができて、日本全国や東南アジアからバイヤーが集まってくるというくらい魅力のあるものができることを期待しているんです。

日本は卸しの流通機構がかなり強力にでき上がってましたんで、そういった形のものがいいんです。本格的なトレッドセンターが今までに日本になかったんで、これが日本で成功するかどうか、大変注目されています。

川上 ファッション協会の趣旨の中に、神戸の将来の都市づくりをどう考えていくかというところがあるんですけどね。街をどうデザインしていくか、六甲アイランドをすばらしいものにする。ハーバーランドをすばらしいものにする。その街々の集積効果、相乗効果をどうあげていくか。言いかえればハイセンスで個性に富んだ輝くばかりの街をつくっていく。そのつくった街々が、相乗

効果を生み出して、その循環がさらに効果を誘発し合っていて、そこから、地域としての集積パワー、総合力を限りなく発展させていく。そうあるために何をやるべきかという事です。そこで、じゃあ、それを実現しようと言言させていただいたのが、今、造成中の第二期ポートアイランドファッションエリアの予定地に20ヘクタールのインターナショナルシティを建設することなんです。そのデザインシティを起爆剤に、六甲アイランドやポートアイランド、またハーバーランドや、元町、旧居留地、北野町とか西神戸、北神戸といった神戸各地に相乗効果発生を促し、活気にあふれた、美しく、潤いのある街を実現していく。そして他の各都市にもデザイン都市建設計画を触発して、そのネットワークづくりを神戸がリードしていければ、これは楽しみです。街をどうデザインしていくかというのが大切な時だと思ってるので、ファッション協会の果たす役割は重要ですね。

中内 21世紀に向けてバラ色の構想を打ち上げていた。大賛成ですね。外部から神戸を見た場合、ただファッショナブルできれいな街というだけで、もうひとつ強力なインパクトがない。いままでお話に出たようなハーブで視覚に訴えるものがどうしても必要だと思ってる。そういう点で、デザインシティ構想をぜひ実現して下さい。

木口 いろんな発想を出してもらって、みんなで力を合わせて実現する。そうすると神戸はもっと光ったものになる。ええと思うことはみんなで賛成してやろうと。

松宮 都市はお客さんに来ていただくかないといけない。とくにビジネスマンの往来が激しくならないとダメですね。もうひとつのキーワードは家族。ファミリーが楽しめるという要素もどうしても必要な気がします。

川上 デザインシティには、外国人用に三分の一のスペースを確保しようとしているんですよ。神戸だけで固まりましうではないんです。神戸にないセンスと個性、機能を持つデザイン企業、オフィス、アトリエ、そ

れらを神戸以外の国内の街から、また国内にないものは海外から。ルノアールとかピカソとか、モーツァルトといった人たちが、張り出した大きなテラスから神戸の海、山、星空を愛でつつ、創作活動をするような街。言えなれば未来の人類に贈るモニュメントとなるようなインターナショナルデザインシティを、ですね。

★あらゆる着想を吸い上げて、「神戸発」の実現を

藤本 神戸の街というのは、人口の多い大阪や東京ではひとつの業界が集まるのは簡単なんです。異業種の交流という点では難しい。神戸人の性格というか社交性から、神戸ではみんな親しくしているでしょう。これからは、神戸のただで人材を育てるというんでなく、日本中、東南アジアでも神戸へ来たら自分の力が発揮できるというような、パリが世界中の芸術家を呼び込んで、パリの誰々にしてしまっような可能性がある。

神戸の街は住みやすいですし、ただ、商売になると東京がいいとなる。その辺、うまく考えてやると、ニューヨークなんかの発表でも、東京の企業の人でも神戸で発表できるという風になれば、神戸のイメージも上がり、世界の神戸になって神戸の街が独特の街として、アピールできると思います。

川上 ファッション協会にも外国の企業とか個人とか、これからも増えていって、そういう出会いから新たなものが生まれていくようになってほしいですね。それにKFR（神戸ファッション料理人）の方からも、先日入会の希望を聞いていますが、これは嬉しいことです。

この間、笹山市長から、デザインシティ建設構想についてのご指導を頂いた中に、デザインシティは大企業だけでなく、ベンチャービジネスや個人営業のデザイナー、芸術家も棲みつけるような人情味と界限性のある街に。そしてデザインシティがやろうとしている年一億円以上の奨学金。これをうけて巣立った国内外の若者たちを同窓会など会合を作って、神戸にUターンできる

ようなシステムづくりを、とおっしゃられてまして、大変すばらしいと思いました。

松宮 フランスのあるお菓子屋さん、昔学校やっていたんです。そこで世界中の人が習いにくる。ただ技術だけ教えるのではなくて、デザイン感覚であるとか、センスとか、ホスピタリティも含めて教えないと、技術だけ習って帰るっていうのは、菓子屋でもプロとして半人前ですよね。そういったいい先生が世界から集まって居つてくれると、文化度も上がってきますね。

木口 パリには世界一流のデザイナーが集まるでしょ。そういうのは時間がかかるのですか。伝統というか、歴史の重みというか、神戸がそういうようになるには……川上 いちがいには言えないですよ。なぜ集まるのかというと、まず都市のイメージです。働いて、修業できて、発表表現できる所というイメージをいかに報道するかです。報道されないところにイメージはない。そして報道に価する情報があるかどうかがイメージを作るカギなんです。情報は土壌から生まれる。イメージを作り人と呼び込むという循環の仕掛けですね。それを作ればいい。

藤本 パリがファッションとしての力を持っているというの、マリーアントワネットの時代からのオートクチュールの流れがあるからで、王侯貴族のオシャレ、すなわちオートクチュールがファッションの原点です。今は、オートクチュールの時代は過ぎて第二次大戦後は大衆がお金を持ちだしたから大衆のアパレルの時代になった。この二つは全く異質です。オートクチュールは特定の個人のための高度なものです、アパレルは歴史が浅いから、パリをそんなに恐れることはないと思います。

川上 竹下通りなんかも短期間にあんなったんですね。そういう仕掛けがあればできていくんですよ。神戸にはそのための土壌がありますから、種をまくだけでいい。中内 現在、神戸のホテルに宿泊されるお客さんの三五％は関東からの人です。ほとんどがビジネスでなく観光

です。神戸としてはビジネスを強くすることですね。観光面についていえば、京都のように長い蓄積がないので、海や山があつてきれいでいいですが、一日で終わってしまふ。

一昨年、神戸は東京に次ぐ第二位の国際会議開催件数がありました。昨年は京都、東京、神戸です。いずれにしても最近十年で日本を代表するコンベンション都市になったということは、高く評価できると思います。ファッション都市の可能性もこれからですから。九三年にアーバンリゾートフェアを開くという方向づけもできていますし、観光都市神戸という実績との相乗効果によって海外からもお客さんがくることを期待しています。

藤本 一神戸の何とかでなく、立派な舞台ができてるんですから、東京の人もパリの人も神戸で発表したいと思うような機構を考えて頂いて「神戸発」が世界中の憧れになるように願います。

川上 ファッション協会がみんなに喜ばれて成功するためには、官、産、学、文、民に報道も加えて、ファッション都市作り運動を協会が強力にリードしていくことですね、そうすればそこから活力も生まれると思います。

松宮 ワーキンググループは、女性の着想を吸い上げるとか、21世紀に生きる人を大切に、強力に運動を進めてほしい。キーワードとしては「窓辺に花」を提唱したい。チュールリッヒに行けば、窓辺に花があり、ああチュールリッヒに來たと感激する。花でなくてもそういった象徴的なものが神戸に欲しい。「お祭り大好き」で変った文化に感動する演出もできる。もうひとつは、家族で来る街、さらに異国情緒豊かな街をどう形作るかということです。

木口 皆さんのお話を伺って大変嬉しく思いました。神戸が発信機能をもつために今後ともよろしくお願いします。

(於 神戸ポートピアホテル・パールの間)

田崎真珠株式会社

取締役社長 田崎 俊作
神戸市中央区港島中町 6-3-2
TEL (078) 302-3321

オールスタイル株式会社

取締役会長 川上 勉
神戸市中央区港島中町 6-5-1
TEL (078) 303-3311



キャンペーン「神戸の観光と魅力を探る」の
企画は以上各社の提供によるものです。